

## グローバルに社会基盤を担う企業としての 社会的責任を果たしていくために



### 川崎重工グループの社会的責任

当社グループは、1878年に造船事業を開始して以来、鉄道車両や航空機、さらにはカワサキブランドで知られるモーターサイクルなどの輸送用機器・システム分野で事業基盤を築くとともに、ガスタービン、ガスエンジン、エネルギー環境プラントなどのエネルギー環境分野や、産業プラント、油圧機器、ロボットなどの産業機器分野へ、時代の変化に応じて事業を拡大させてきました。2007年には「カワサキグループ・ミッションステートメント」を制定し、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」をその最上位に掲げ、当社グループが果たすべき社会的使命を明確にしました。このグループミッションを継続的に実践し発展させていくために、「企業の社会的責任」という観点から具体的な行動目標に展開し推進していくことを、川崎重工グループにおけるCSR活動と位置付けています。企業活動のあらゆる局面においてステークホルダーの皆様に対する責任を意識して行動するとともに、「現在の社会と未来の社会」のよりよい発展に貢献していきます。

2011年度には、川崎重工グループとして求められる姿をより具体的に追求するために、有識者ダイアログを行いました。(11-12ページをご覧ください。)有識者の方々からいただいたコメントやご提言は、ステークホルダーのご意見を代弁するものとして、CSR活動に反映させていきます。

### 東日本大震災から1年余が過ぎて

2011年は未曾有の自然災害の脅威が深く心に刻まれた年となりました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を祈念致します。

当社グループでは、阪神・淡路大震災の経験を機に「従業員と家族の生命を守る」「自らの事業活動の正常化」「地域社会への責任と貢献」を基本方針とする事業継続計画を策定していましたが、東日本大震災発生を契機とし、「社会インフラを担う企業として大規模災害が発生した際でも社会的責任を果たすために継続しなければならない業務の遂行」を事業継続計画の重点項目として位置付け、見直しを行いました。(9-10ページをご覧ください。)

東日本大震災後には、社会の要請も変化しています。たとえば、非常時の電源セキュリティの観点から、信頼できるエネルギー供給システムや、節電時の運用も含めたエネルギー利用の効率化などに対する要請が高まりました。また、災害に強いまちづくりの必要性も一層明確になりました。当社グループはこれらの要請に積極的に応え、地域の特性を活かした自立型の分散発電システムや、これらの発電設備を備えた防災拠点など社会に対し新たな価値を提供し、安心・安全な社会の発展に貢献していく所存です。

### グローバル課題への挑戦

近年、新興国を中心として世界経済が加速度的に成長を続ける一方、温暖化などの環境問題が深刻化しつつあります。また、環境と資源を考えた未来のエネルギーのあり方も改めて問い直されています。さらに、新興国における輸送・産業等、社会の基幹インフラシステムの構築に対する要請もますます高まりを見せています。

グローバル社会からの期待に確実に応えていくためには、

社会やお客様の声を直接お聞きし、新たな価値を創造し提供することが重要だと考えています。こうした状況を受け、当社グループは2012年4月にマーケティング本部を設置し、全社的な総合力を結集し、グローバルな視野に立ち、お客様との相互理解を得ながら事業を通じて貢献を果たしていく活動をより強化していくこととしました。

これらの取り組みを通じて、社会・経営環境変化に対応し、絶えず革新・変革を続けながら社会やお客様をはじめあらゆるステークホルダーの皆様にご貢献することで、企業としてもより一層成長することを目指していきます。

川崎重工株式会社  
取締役社長

長谷川 聡